

【日本医科大学付属病院 がん化学療法レジメン】

≪無断転載禁止≫

レジメン番号： NSC-174

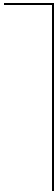
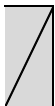
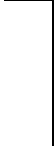
対象疾患	レジメン名称	コース期間	総コース数	適応	催吐リスク	根拠
非小細胞肺がん	Pembrolizumab +CDDP/PEM	21日間	4コース+α	<input checked="" type="checkbox"/> 進行/再発 <input type="checkbox"/> 術後補助化学療法 <input type="checkbox"/> 術前補助化学療法 <input type="checkbox"/> 放射線併用化学療法 <input type="checkbox"/> その他	高	N Engl J Med 378: 2078-92, 2018

	薬品名	投与量	投与経路	投与時間	Day																				
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
①	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓																				
②	キイトルーダ 生理食塩液	200mg/body 50mL	点滴静注	30分	↓																				
③	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓																				
④	デキサート パロノセトロン アロカリス	9.9mg 0.75mg/50mL 235mg	点滴静注	30分	↓																				
⑤	アリムタ 生理食塩液	500mg/m ² 100mL	点滴静注	10分	↓																				
⑥	硫酸Mg フィジオ70	8mL 500mL	点滴静注	60分	↓																				
⑦	マンニトール	300mL	点滴静注	60分	↓																				
⑧	シスプラチン 生理食塩液	75mg/m ² 250mL	点滴静注	60分	↓																				
⑨	フィジオ70	500mL	点滴静注	60分	↓																				
上記4コース施行後、維持療法（Pembrolizumab(day1)+PEM(day1) q3w）を病勢進行まで施行																									

<注意事項/備考>

- ✓ CDDP：腎毒性軽減目的にMg投与
- ✓ 催吐リスク：高：NK1受容体拮抗薬+5HT3拮抗薬+DEX
- ✓ PEMの副作用軽減目的のために、葉酸とビタミンB12を併用
 - 葉酸：初回投与7日以上前から1日1回0.5mgを連日経口投与（PEM中止/終了の場合は、最終投与から22日目まで継続）
 - ビタミンB12：初回投与と少なくとも7日前に、1回1mgを筋肉内投与（投与期間中、投与中止後22日目まで9週ごとに1回投与）

| ✓ Pembrolizumab : 0.2または0.22 μ mのインラインフィルターを用いて投与



└─